

お鍬山 植物たより (H26. 1. 5)

お鍬山からの日の出も捨てたものではありません。元旦は曇りのため、若者の2人連れ、子供3人連れの5人家族の2組が来ていましたが残念ながら見るできませんでした。写真は1月3日、7時15分に展望台から、咲いているシキサクラを見ながら撮ったものです。シルエットのような六所山と炮烙山の周辺が明るくなり、その間から太陽が顔を出した瞬間です。



日の出とシキサクラ

お鍬山の冬は、コナラやアベマキ等が丸坊主で明るくなり、足元では衣服に着くアメリカセンダングサやヌスビトハギ、あるいは花粉の飛散するダンドボロギク、又まとわりつくカラスノエンドウ等が枯れて歩きやすくなっています。直接太陽を浴びながら落ち葉のじゅうたんを踏みしめての散歩は爽快です。

お鍬山ではアラカシなどの常緑樹を伐って陽を多く受け、実生の幼樹が増えました。常緑樹ではクスノキ、カクレミノ、ヤツデ、ヒイラギ、イヌツゲ、イヌマキ、アオキ、シュロ、ナンテンなどが目立ちます。葉にそれぞれ特徴があり、覚えればすぐ分かります。クスノキは中央広場に大木が一本ありますが、これらの樹木の多くは庭木としても用いられているので、実を鳥が運んでくれたからでしょう。かつて多く自生していた松の幼樹も各所で見られます。

なお、愛知万博のうちに自然保護の象徴として話題となったシデコブシ、スズカカンアオイもお鍬山では自生していますが、スズカカンアオイは珍しく常緑の草本で冬の今も遊歩道沿いの各所に見ることができます。お世辞にもきれいな花とは云えませんが、個性的で魅力的ではあります。



カクレミノ



ヤツデの花



スズカカンアオイの花